うちのあかり地域ネットワーク醸成業務

報告書

2024 年 3 月

ＮＰＯ法人アーツセンターあきた

目次

１．概要 2
1.1　目的
1.2　対象
1.3　期間
1.4　業務内容
1.5　実施体制

２．新屋地域の住民や団体を参加対象とするイベント報告 3
2.1　イベント等の開催に関する背景の整理
2.2　秋田公立美術大学学生（以下、秋田美大生）を中心とした屋外活動計画とイベントのプレ開催（2022 年度実施）
2.3　任意活動団体「たきびっこ」による焚き火イベント「たきびっこ」の開催（2023 年度実施）

３．新屋地域の住民や団体とのつながり形成に関する報告 16
3.1　土地所有者、地域の有力者等への説明、学生引合せ
3.2　新屋地域包括支援センター経由による高齢者・高齢者サロンとのつながり形成

４．今後の課題 18
4.1　イベント運営について
4.2　広報について
4.3　会場設営について

５．考察 20

１．概要

1.1　目的

NPO 法人 アートリンクうちのあかり（以下、「うちのあかり」）を、地域に開かれたこれからの福祉施設を運営する団体にしていくことを目指し、主に秋田市新屋地区での地域ネットワークに参画し、うちのあかりの地域ネットワーク醸成を目的とする。

1.2　対象

たきびっこ

1.3　期間

2023 年 8 月 2 日～2024 年 3 月 31 日

1.4　業務内容

次の施策を実施する。

（１）新屋地域の住民や団体を参加対象とするイベント等のディレクション

（２）本業務における活動に対する新屋地域の住民や団体とのコーディネーション

（３）本業務における活動記録作成

1.5　実施体制

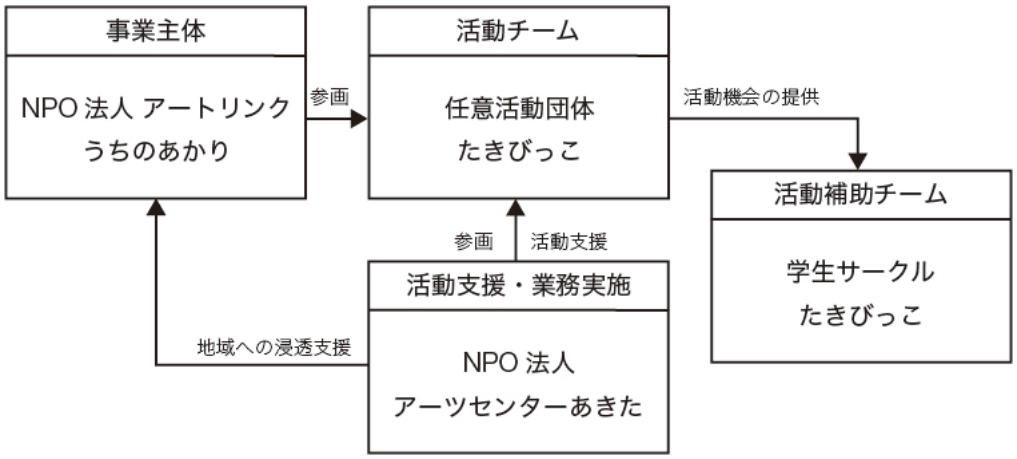

図 1 実施体制図

２．新屋地域の住民や団体を参加対象とするイベント報告

2.1　イベント等の開催に関する背景の整理

「うちのあかり」は、秋田市新屋の南部（比内町）に位置し、アートの制作行為を媒介に障がい者と非障がい者と分けられる人々の間を「表現」を通した「共生」「相互理解」の促進を図る場として、地域活動支援センターを運営する障がい者福祉活動を行うNPO法人（代表：安藤郁子 *秋田公立美術大学教授）である。

これまでに数々の展覧会（例えば、「あきたアート はだしのこころ」展）や、希望スペースへの作品展示を展開する事業「作品ホームステイプロジェクト」などを実施し、障がい者の作品を公開することによる地域への参画を行ってきた。

それらの活動が良い反応を得ている一方で、地域活動支援センター周辺での周辺住民とのいざこざ（陰口、遠巻きに見る、見かけると逃げるなど）から、地域社会への浸透が課題となってきた。また、郊外ではなく地域内での「うちのあかり」による生活介護事業も計画され始め、障害福祉の観点における障がい者と地域住民との干渉帯のあり方の検討に加えて、団体としても地域社会とのネットワーク形成が目標となった。

そこで、秋田公立美術大学の学生らを交えた地域内活動による地域社会への浸透を企図することとなった。

2.2　秋田公立美術大学学生（以下、秋田美大生）を中心とした屋外活動計画とイベントのプレ開催（2022年度実施）

生活介護事業の拠点となる可能性から秋田市新屋元町の空き地を会場として、地域住民に視覚的にも開いた屋外活動の実施を計画することとなった。当時、計画施設への陶芸窯の設置などが検討されており、陶芸に関するイベントがアイデアとして出たが、学生の関与がより進むことを期待して、簡易な窯焼きや焚き火などを軸にしたイベントを企画することとなり、2022年10月28日に「うちのあかり」代表理事で、秋田公立美術大学教授の安藤郁子先生から学生に広く声がかけられLINEグループの設置とともに活動チームが立ち上げられた。

本報告における業務以前の活動にあたるが、2023年10月以降の運営方法との差異を示すことを目的として記す。

2.2.1　プレイベント①（2022年11月27日）

（1）準備

11月10日に活動チームのコアメンバーが集まり、11月27日に地域イベントを開催するための打合せを行った。イベント内容を決めるにあたって最初に、「できること」「楽しめること」「善いこと」を前提とすることが確認された。

現地の環境から草木染めや立体物など様々な創作も検討されたが、地域住民の参加のしやすさなどから「焼きいも」をメインテーマとして開催することとなった。ま

た、外部からの参加者との協働機会を作る方法として、来場者には可能であれば草刈りへの協力を依頼することとなった。

事前には、開催のために、現地調査、近所の方への相談、告知物の作成と配布、消防署への手続き、焚き火用具の制作と試験などを分担して行なった。

(2) 当日

「うちのあかり」から、福祉関係者や障がい者への呼びかけ、学生への告知の結果、想定を超える来場があった。秋田市内で活動するアーティストや訪問中のダンサー、障がい者、秋田美大生、地域住民など非常に多様な人々が新屋地域の住宅街の一角に集まる稀有な場面となったが、活動チームである運営を担う学生やうちのあかりスタッフは絶えず来場者の間を行き来しておかねばならず、当初予定していた来場者への草刈り協力の声かけや近隣からの来場者との対話のほか、焚き火の着火の練習なども手が回らない状況となってしまった。

一方で、直接チラシを手渡した小学生らの来場があるなど、焚き火のイベントが人を集わせることができる可能性を感じることができた。また、開場前の草刈りには地域住民の草刈機持参の参加があり、地域活動に対する新屋の住民の受容性の高さと前向きな関与の姿勢を伺うことができた。

図 2 プレイベント①の様子

2.2.2　プレイベント②（2023 年 1 月 14 日）

（1）準備

12 月 8 日にプレイベント①のふりかえりを実施した。イベント中はスタッフ間でやりとりができなかった細々とした出来事の共有がなされた。併せてプレイベント②の計画が議論され、主に来場者をもてなすために何を焼くかが話し合われ、「焼き果物」がメインテーマとなった。

メインテーマがイメージできるデザインで 12 月中旬にイベントチラシの作成が進んでいたが、冬季の開催であることから屋外開催に対する検討のし直しが意見として出されたため、あらためて開催内容を含めた話し合いが 12 月 30 日に行われた。チラシは 1 月 7 日に完成し、1 月 10 日には直前の会議が開かれて、チラシの配布や準備品（悪天候の場合の会場変更案内板・消防届出など）の担当およびスケジュールなどが確定した。また、前回（プレイベント①）のふりかえりから改善点を検討し、事前の打ち合わせで各道具の必要数の確認や会場看板の設置が検討された。

（2）当日

天候が悪かったため、空き家を改装したスペース（秋田市新屋表町 9-42「斜向かいのアトリエ」）とその庭を利用して開催した。来場者は主に秋田美大生だったが、障がい者の来場もあった。当初の目的にも適う、学生と障がい者相互の交流機会と期待されたが、コミュニケーションが図られることはほとんどなかった。どのように関われば良いかを知らなかったことが一つの要因として挙げられている。

会場案内の看板は設置方法までは確定されておらず、間に合わせとして脚立などに括り付ける形で設置された。

2.2.3　プレイベント③（2023 年 3 月 5 日）

（1）準備

当初から検討事項にあった会場での即席の陶芸窯による窯焼きのイベントについて、耐熱煉瓦を重ねて作る焼き窯に造詣の深い陶芸家の山田浩之氏を当該イベントに招いて行うことを想定して計画を練った。また、きりたんぽを焼く回転式の器具を持っている方から参加の打診があり、持ち込み企画として関与してもらうこととなった。持ち込み企画に合わせて、来場者が各々で作り食べてもらう「創作きりたんぽ焼き」を行うこととなった。山田氏に会場周囲を知っていただくことや多くの来場者を見込んで、短時間のまちあるきを計画した。

イベントのアイデアが拡散型で多様な意見が出るものの、それらが実現可能かどうかの判断が、経験の少ない学生には難しく、検討を繰り返すことへの疲れが見え始めていた。また、屋外のため雨天時を同時に検討しておかねばならないことも、準備・検討に対する障壁となっていた。

（2）当日

会場準備を終え、創作きりたんぽやきりたんぽ鍋のための準備から開始した。きりたんぽの準備は、会場近隣の貸しスペース（渡邉幸四郎邸）のキッチンを借りて行なった。きりたんぽの準備の後は、「創作きりたんぽ焼き」の準備とまちあるきイベントに分かれて実施し、山田氏のほか、陶芸窯に興味があって参加された方々にも極めて一部ではあるが新屋を案内することができた。

持ち込み企画のきりたんぽ鍋も好評であったため、「創作きりたんぽ」のためのご飯がほとんどなくなってしまった。このイベントは、参加者にもイベントの一部を担ってもらうことを期待したプログラムを計画しているが、来場者への振る舞いのようになってしまった。

図 3 プレイベント③の様子

2.3　任意活動団体「たきびっこ」による焚き火イベント「たきびっこ」の開催（2023 年度実施）

2022 年度の方向性を維持して、2023 年度も焚き火イベント「たきびっこ」を開催することとなった。4 月から秋田公立美術大学に新入生が入学してくることもあり、運営の仲間を増やして活動していくことを目指していたことから、新入生を対象としたバーベキュー会から開始した。その後、焚き火イベントに学生のアイデアを混合したイベントを開催していくこととなり、6 月にその一歩目を踏み出したが、負担の増大や「うちのあかり」が本事業で設定している目的と学生のやりたいこととの不一致などが明確となって仕切り直しを行うこととなる。

その間、活動チームの中心的な学生らは疲労感を抱えるなど問題があったが、目的の再確認、目的達成のための方法や継続的な活動のための方法などの検討につながることとなった。

なお、イベントにかかる費用の一部は、「秋田市地域づくり交付金」を使用した。

2.3.1　たきびっこ①

開催日時：2023 年 4 月 15 日（土）13:00～15:00
場所：秋田市新屋表町 9-42（斜向かいのアトリエ）
内容：秋田公立美術大学の新入生を対象とした交流会
参加：40 人　秋田美大生

（1）準備

主に当日の参加者数の把握のため、記帳用ノートを置いて参加者への記帳を促していたが、プレイベントでは明確な受付スペースがなかったため適切な運用ができていなかった。来場者には受付を経て参加してもらうことについて認識を共有した。また、

バーベキューで必要な食材や買い出し担当、スケジュールなど、計 2 回の打ち合わせが行われた。

(2) 当日

新入生の 3 分の 1 以上の来場があり、学生同士の交流を促進することができた。また、「たきびっこ」の活動を体験した上で紹介することができた。

図 4 たきびっこ①の様子

2.3.2 たきびっこ②

時間：2023 年 6 月 11 日（日）13:00～15:00
場所：秋田市新屋日吉町 1-14　元日新保育園跡
内容：焚き火イベント
秋美生の企画の実施（ラーメン提供・宝探しイベント・占い）
参加：40 人　近隣の障害者福祉施設に通う障がい者、小学生を含む近隣住民、秋田美大生

この回より地域住民を対象とした 2023 年度の活動を開始した。加えて、本事業をプラットフォームとして、秋田美大生による企画を実施する方法の実証検討を行なった。

(1) 準備

たきびっこ①のバーベキュー会のふりかえりや、「たきびっこ」と関わることについて、学生が何を期待しているかの聞き取りを行なった。その上で様々な企画アイデアを出していったが、地域住民の参加を促進するような内容であったり、障害者福祉の視点を盛り込むことへの期待に応えるようとする内容調整に難航していた。

本来は、「たきびっこ」が焚き火イベントを開催することで、地域内に自ずと会場

が開かれることから、その場を企画の持ち込みが行えるプラットホームと捉えて学生の関与を期待していた。しかし、企画を持ち込む場合には「たきびっこ」自体の運営も含まれるような雰囲気となっていたことが、企画内容の調整に苦心する要因であると伺えた。このような雰囲気醸成には、プレイベントの経験を通して、活動チーム内部に「たきびっこ」運営にかかる負担を学生に分散したいという気持ちが作用した可能性が見受けられた。

そこで、改めて学生らから現状への意見などをヒアリングしながら、当初の計画に基づき次のように役割分担を明確にした。(表 1)

表 1　各チームのたきびっこ開催に関する役割分担

チーム	担当
任意活動団体「たきびっこ」	焚き火のみのイベントを開催・運営する
学生サークル「たきびっこ」	たきびっこ会場で自分たちがやってみたい企画を持ち込み実施する

(2) 当日

学生サークルのメンバーは、数日前から手作りラーメンの仕込みに取り掛かるなど、力を入れて自分のやりたいことの実現に取り組み、他の学生や地域住民の参加も多く、イベントは浮上に盛り上がり、成功の様子を見せていた。ふりかえりでも、持ち込み企画が来場者との会話を促進したことなどが確認された。しかし、借りた調理器具を学生サークルのメンバーが洗わなかった、片付けに参加しなかったなど、「たきびっこ」活動チームである学生らと、サークルメンバーとの意識のズレが明らかとなり、サークルメンバーへの遺憾を表明する者も出てくる事態となった。一方で、イベント時に「何をすれば良いかがわからなかった」という意見があり、サークルには企画の持ち込みのみが役割として打診され、片付けへの参加については明確な声掛けがなされていなかったことも判明した。

図 5 たきびっこ②の様子

2.3.3　たきびっこ③

時間：2023 年 10 月 8 日（日）12:00～16:00
場所：秋田市新屋日吉町 1-14　元日新保育園跡
内容：焚き火イベント
　　持ち込み企画　ギター演奏・歌唱
参加：19 人　小学生を含む近隣住民、秋田美大生

---

6 月に開催したたきびっこ②のふりかえり（6/22,6/26 の計 2 回実施）で、次回以降の日程調整を進めることとなったが、長期予報により猛暑が予想され、来場者に危険が伴うことから 7 月～9 月の開催を見送ることとした。その間、これまでを深くふりかえり、開催にかかる労力を大幅に削減する方向で開催方法や日程、告知方法について協議を重ね、10 月から毎月第 2 日曜日 12 時～16 時で開催することを決めて実施した。

これまでをふりかえって検証し、改善には以下の視点を意識した。

ア）地域住民や障がい者が集うことができる場づくりのため、定期的かつ継続して開催できること。

イ）ア）の実現のために、運営スタッフの労力や開催費用を削減すること。
ウ）何をすれば良いかがその場でも判断しやすいよう、開催内容を単純化すること。
エ）「たきびっこ」は原則として月１回の焚き火の場と位置付け、持ち込み企画は自己完結をお願いすること。

（1）準備

開催案内チラシはこれまで毎回テーマに合わせた絵柄で作成してきたが、10 月のたきびっこ③からは開催日を確定して記し、年度内の開催案内をまとめることとした。このことにより、毎回のデザイン制作や印刷、配布の負担がなくなった。また、チラシ制作の遅れから開催案内が直前になってしまうといった問題も解消した。

焚き火イベント開催に使用する道具類は、うちのあかりが管理する家屋「斜向かいのアトリエ」に保管することとし、開始前にその場所から会場に運ぶこととした。これまでは来場者に食べ物などの「振る舞い」を意識していたが、焚き火を囲んでゆったりとした時間を過ごしてもらうことに意識をシフトした。

近隣の砂浜には流木が多く流れ着くため、清掃も兼ねて流木を薪として使用する案が計画当初からあり、準備が楽になったことでそれを実施することができた。

（2）当日

参加者はこれまでと比較すると多くはなかったが、スタッフは落ち着いて来場者と会話をすることができた。

食材の持ち込み・持ち寄り、企画の持ち込みは SNS で呼びかけ、来場者がギターを持ち込み弾き語りが行われた。

図 6 たきびっこ③の様子

2.3.4　たきびっこ④

時間：2023 年 11 月 12 日（日）12:00～16:00
場所：秋田市新屋表町 9-42（斜向かいのアトリエ）
内容：おちゃっこ・調理・みんなでご飯を食べる
　　持ち込み企画　音楽演奏・粘土遊び
参加：19 人　近隣の障害者福祉施設に通う障がい者、近隣住民

（1）準備

近隣の砂浜での流木広いは雨天が続いたため中止となった。この回まではまだ食べるものも用意しておくという意識が残っており、提供する食べ物などの検討や食材の買い出し担当およびスケジュールについて LINE 上でやりとりが交わされた。当日も雨の予報で、直前まで屋外開催にするか屋内開催にするか、あるいは事前確定せずに天候を見ながらその場で決めるなどの意見交換が続いた。

（2）当日

「斜向かいのアトリエ」の屋内が本格的に使用できることとなり、雨天だったため、たきびっこ④は室内での開催となった。焚き火はないが秋田の文化「おちゃっこ」として開催し、キッチンで調理したり、大きなテーブルを囲む、あるいは別の部屋で過ごすなど屋外とは異なるコミュニケーション空間となった。また、参加者による喫茶企画が持ち込まれたり、演奏や歌唱など自由な表現行為が行われた。

図 7　たきびっこ④の様子

2.3.5　たきびっこ⑤

時間：2023 年 12 月 10 日（日）12:00～16:00
場所：秋田市新屋日吉町 1-14　元日新保育園跡
　　秋田市新屋表町 9-42（斜向かいのアトリエ）
内容：屋外　焚き火イベント・マサラチャイ
　　持ち込み企画　占い・粘土
　　屋内　おちゃっこ・塗り絵
　　持ち込み企画　音楽演奏・喫茶・xChange（衣料の無料交換会）
参加：20 人　近隣の障害者福祉施設に通う障がい者、近隣住民、秋田美大生

（1）準備

準備の煩雑さから、来場者への食べ物の提供をイベントの内容として組み込むことを取りやめることとした。流木についても冬季は絶えず濡れた状態となることから、春からの収集を始めることとしたため、事前の準備はほぼ不要となった。

（2）当日

気温が低くなってきたこととから、屋外と屋内との 2 会場での開催を実施した。2 会場で同時開催ができるのも、イベントの準備や運営にかかる労力が削減されたからだと考えられる。

来場者は自身の判断で会場を選ぶことができたが、多くの来場者が両会場を訪れる様子が見られた。また、これまで屋外会場のレイアウトデザインを検証してこなかったが、今回から椅子や焚き火台、受付ブースなどの配置を、コミュニケーションの促進や会話の輪に入らなくても居やすいことなどを検討して設置することとした。

衣料の無料交換会を開催するグループが屋内会場にて企画を持ち込むこととなり、これまでの「たきびっこ」とも異なる来場者が訪れた。

図 8　たきびっこ⑤の様子（屋外会場）

2.3.6　たきびっこ⑥

時間：2024 年 1 月 14 日（日）12:00～16:00
場所：秋田市新屋日吉町 1-14 元日新保育園跡
　　秋田市新屋表町 9-42（斜向かいのアトリエ）
内容：屋外　焚き火イベント・マサラチャイ
　　持ち込み企画　粘土・鹿肉 BBQ
　　屋内　おちゃっこ・塗り絵・福笑い・藁編みワークショップ
　　持ち込み企画　音楽演奏・喫茶
参加者：24 人　近隣の障害者福祉施設に通う障がい者、近隣住民、秋田美大生

第 5 回（たきびっこ⑤）に引き続き、気温が低いため屋外・屋内の２箇所で開催した。SNS を見た高齢者が訪れるなど、初めて参加する来場者が増えてきている。地域の高齢者サロン運営者の集まりでイベントを紹介した効果が出始めた可能性もある。この回より、事前に参加できるスタッフを確認することとし、その人数と天候によって、会場を「屋外のみ／屋内のみ／屋外と屋内２箇所」から選ぶこととした。

2.3.7　たきびっこ⑦

時間：2024 年 2 月 11 日（日）12:00～16:00
場所：秋田市新屋日吉町 1-14　元日新保育園跡
内容：焚き火イベント・マサラチャイ
　　持ち込み企画　レコード視聴・音楽演奏・お菓子等の持ち寄り
参加：23 人　近隣の障害者福祉施設に通う障がい者、近隣住民、秋田美大生

第 5 回頃から、運営側と直接つながりのない来場者が見られるようになってきた。今回も初めて来場する参加者があり、本事業が少しずつ地域に浸透しつつあることが窺える。テントの活用や椅子の配置については、毎回これまでの配置の確認と新たなアイデアを出しながら検討を重ねている。また、これまで酒瓶の空きケースを椅子として使用してきたが、スペース利用性や居心地の問題から丸椅子を用いることとした。

2.3.8　たきびっこ⑧

時間：2024 年 3 月 10 日（日）12:00～16:00
場所：秋田市新屋日吉町 1-14 元日新保育園跡
　　秋田市新屋表町 9-42（斜向かいのアトリエ）

内容：屋外　焚き火イベント・マサラチャイ
　　持ち込み企画　レコード視聴・音楽演奏・食材持ち込み&持ち寄り
　　屋内　おちゃっこ
　　持ち込み企画　xChange（衣料の無料交換会）・晴雨文庫・音楽演奏
参加：40 人　近隣の障害者福祉施設に通う障がい者、近隣住民、秋田美大生

年度最後の開催となった第 8 回にも、新しい参加者が多く来場した。火を囲むことでコミュニケーションが促進されるといった当初予想していた効果とともに、参加者が自由に企画を持ち込むことができることも広がり、面識のない参加者による多くの新しいコミュニケーションが生み出された。

図 9 たきびっこ⑥⑦⑧の様子（屋外会場・屋内会場）

３．新屋地域の住民や団体とのつながり形成に関する報告

3.1　土地所有者、地域の有力者等への説明、学生引合せ

事前にアーツセンターあきたのスタッフによる電話や訪問での概略説明をした上で、活動チームの学生メンバーと学生が作成した説明資料（図 10）を持って、土地所有者や地域の有力者等へ訪問し、活動の意図や内容を説明した。

学生が地域で活動することについては条件の提示などもなく受け入れられ、「困ったことがあれば何でも相談して」と、支援の姿勢も示してもらった。秋田弁があまり聞き取れない学生との対話であっても、快く迎え入れてもらっている様子から、これまでの地域住民と秋田美大生との良好な関係構築の成果が伺えた。

また、会場となる空き地の所有者からも、様々な利用の仕方の可能性を相談した際に「相談をしてもらえれば概ねどのように使ってもいい」といった回答があり、地域活動に対する許容力を感じることができた。

図 10　説明に用いた学生作成の資料

3.2　新屋地域包括支援センター経由による高齢者・高齢者サロンとのつながり形成

3.2.1　高齢者サロン運営者へのたきびっこの紹介（2023 年 11 月 27 日）

新屋地域包括支援センターからの依頼で、市の「高齢者生活支援体制整備事業」の一環で開催されている「西部友の会」に出席し、たきびっこイベントの紹介と開催案内を行った。

この会は、高齢者の生活支援について「何を誰が支援するのか」を議論してきた結果、近所の人たちの交流、顔馴染みの関係構築の重要性を認識し、
ア）シニアが集えるサロン・通いの場などの共有・リスト提供
イ）新屋の特徴的・先進的な事例・取り組みの共有
の方向性が見出されているとのことであった。

高齢者サロンの他にも高齢者が参加できる地域活動はあり、それらの活動者とも情報共有ができる場へと西部友の会を発展させるための第一歩として、地域のスポーツチーム運営者に加えて「たきびっこ」にも参加が打診されたことが参加の経緯である。情報共有の場では、各高齢者サロンの活動内容や活動への工夫、特に男性高齢者の参加促進について意見交換がなされた。サロン運営者は、参加者が飽きないよう様々なイベントを企画しているが、例えば女性に人気の健康体操などは男性に人気がなく、男性はグラウンドゴルフであれば多く参加するなどの意見について、サロン運営者の多くが同意していた。一方で日帰りバス旅行は男女共に人気の企画であるが、費用面に課題があり、無料送迎のある施設の情報交換が活発になされた。

また、学生をよく見かけるがどのように話しかけて良いかわからないといった意見があった。「学生は政治のことなどを話すのか」と問われたことから、学生らとの日常的な会話の場が不足していることを確認した。同じような興味関心を持っていることが共有できれば、世代間のコミュニケーションの難易度を下げることができると考えられた。これは、障がい者との関係においても同様に作用する可能性があり、「うちのあかり」やその利用者が地域ネットワークに入っていくための媒介手段として、「たきびっこ」が機能することが期待できる。

3.2.2　たきびっこおよび秋田美大生の紹介　（2024 年 1 月 22 日）

新屋地域包括支援センターの仲介を得て、再度、「西部友の会」への参加の機会をもらえることとなった。前回のヒアリングにて、地域の高齢者（住民）と学生との直接的な会話が不足していることが明確になったため、事業の紹介だけでなく学生との会話を楽しんでいただくことに主眼を置いて参加した。

今回は高齢者サロンの運営者のほか、高齢者生活支援体制整備事業の関係者が参加しており、地域内での事業の展開などについてもアドバイスをもらうことができた。学生との会話では、新屋の歴史や秋田公立美術大学の成り立ちなどにも話が及び、傾向として男性は地域の歴史を、女性は日常生活についての話がしやすいように見受けられた。

４．今後の課題

4.1　イベント運営について

活動当初はさまざまな可能性の検証を行う必要もあって、地域住民や障がい者の参加に加え、学生の関与を盛り込みながら、いわゆるハレの場として計画したイベントを行なった。非常に多くの来場者を得ることができたが、地域ネットワーク醸成のための「地域住民の参加」は少数ありつつも、活動チームメンバーは来場者対応で余裕がなくなり、地域住民が来場していることも分からない状態となっていた。

その要因は、イベント形態や運営方法、会場レイアウトにあり、それらの改善が求められた。とはいえ、プレイベントや学生サークルを交えた実施と検証は、「たきびっこ」開催の目的―「うちのあかり」の地域への浸透―のためにより適切な、謂わば地域行事のような位置づけのイベントになる可能性をもった活動へと進めることができたとも考えられる。

地域住民や活動チームの主メンバーである学生らも変わっていくことから、今年度の実践で得た「たきびっこ」活動の根幹を共有しながら、新たなアイデアの検討と検証を行なっていく視点の継承方法を編み出すことが求められる。

4.2　広報について

開催日を定めてまとめて記したチラシを作成したことにより、チラシの作成や配布の手間を大幅に削減することができた。また、毎月の定期開催とすることによって、複数の開催日から選んで参加できることも好評であった。一方で、チラシの配架・配布のみで来場者を大幅に増やしたり、新たな来場者の獲得は難しいことも、今年度の実践を通して確認できた。高齢者サロンの方から伺ったように、チラシが置いてあっても見ない、直接手渡されてはじめて意識する、といった情報は、口コミでの来場が多いこととも符合する。

今後の開催に関しては、一定期間の複数の開催日を記した案内とともに、直接手渡しすることができる機会への参加を進めていくことが鍵となりそうである。特に、学生らが高齢者サロン等を訪問して会話をしながらイベントを紹介することは大きな効果があると考えられる。新屋地域包括支援センターとも協力して取り組む必要がある。

4.3　会場設営について

会場空間の設えが会話のしやすさや滞在のしやすさに影響し、雰囲気を作ることを知らない学生がほとんどであった。今年度の実践では、受付は外部に向け、会場内部は多人数・小人数の囲みを作れるような配置とすることが、多くの人と話したい人、小人数で話したい人、一人で静かに過ごしたい人に対して有効である様子が確認できた。これまで、椅子と焚き火台の配置について図 11 の 2 種が検証された結果、現在のところ a)の形態が二つのグループにも大きな一つのグループにもなりやすいとして、図 12 の会

場レイアウトをベースに引き続き検証を重ねていくこととしている。

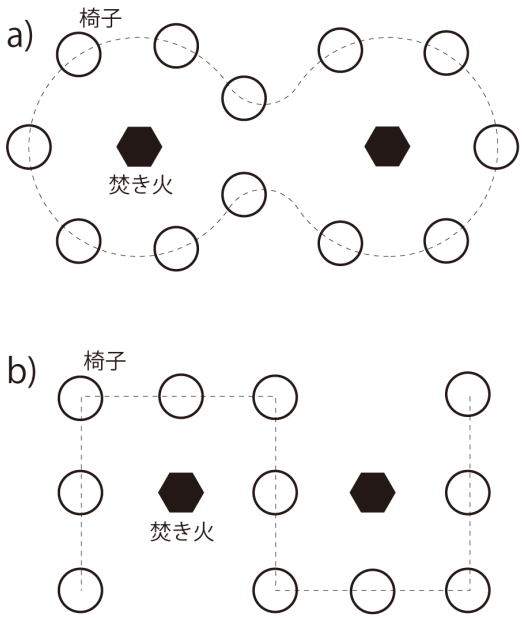

図 11　椅子と焚き火台のレイアウト案

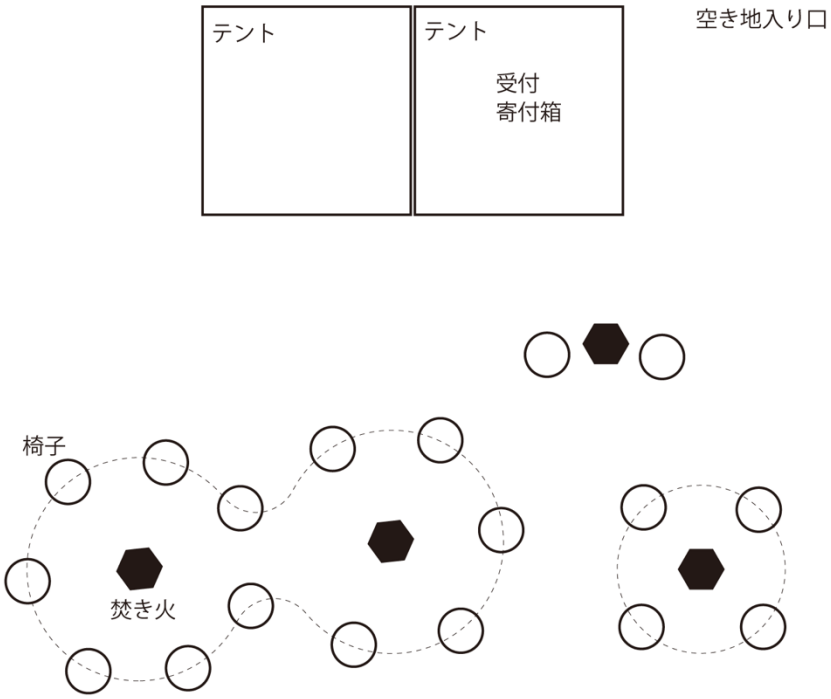

図 12　会場レイアウト

５．考察

通常、イベント開催にあたってはハレの場を形成することを意識するが、地域ネットワークに参画していくためのイベントと位置付けるならば、地域の寄り合いのような変動の少ない安心できる場を考えていくことが必要なのかもしれない。また、地域住民に活動を信頼してもらうためには、活動が長期間継続できることも重要な要素である。これまでの実証と改善によって、一見、焚き火があるだけの代わり映えの少ないイベントを開催していくこととなったが、両方の課題に応えることができる方法が見出されたとも考えられる。同時に、他の地域行事とは異なり、地域外からの来場者を含む多様な異なる参加者が訪れ、さまざまな企画・食材などが持ち込まれることで、小さな変化と地域への新しい関係者を増やしていく活動として評価できるだろう。これらの引き続きの確認と検証のためにも、活動が継続されることが望まれる。

うちのあかり地域ネットワーク醸成業務報告書

令和６年３月

NPO 法人 アーツセンターあきた
〒010-1632　秋田市新屋大川町 12-3 アトリエももさだ内
TEL 018-888-8137　 FAX 018-888-8147